

ク린テートSKの効果確認試験



慣行区①(7月3日)



慣行区②(7月3日)



慣行区③(7月3日)



試験区①(7月3日)



試験区②(7月3日)



試験区③(7月3日)

試験目的

ク린テートSKの効果確認試験

試験作物
及び品種

ミニトマト

試験資材
及び数量(規格)

ク린テートSK(0.1mm×1040(520+520)cm×54m)

慣行資材

カゲナシ5

栽培方法

播種日	収穫日
慣行区:4月20日 試験区:4月10日	慣行区:6月15日 試験区:6月5日

【栽植密度】
畝幅：100cm
株間：40cm

資材使用期間

2月26日～10月30日

試験区面積

340㎡

試験結果

(1)作業性について(慣行品との比較)

- ・展張作業は問題なかった。慣行と比べ大差はないが、強いて言うならSKが滑りやすくて良かった。
- ・ハウス内の作業性では、慣行よりも試験区の方が温度を抑制できるため良かった。

(2)作物の生育状況または、収穫への影響

- ・試験区は霧がかかり、湿度が高いため灰色カビ病が多く発生した。
- ・慣行区は霧がかかることはなく、防霧性は確認できた。
- ・慣行区の方がハウス内は明るい、色づきを試験区と比較すると大差はなかった。

(3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

- 【優位点】：ハウス内では暑さを抑えられ、作業性は良かった。
- 【問題点】：防霧機能が無いためハウス内は高湿度になり、病気が発生しやすい環境になる。

(4)資材の強度・耐久性・崩壊性について

差はなく問題ない。

(5)促成・抑制効果について

- ・促成効果、保温効果については問題なかった。
- ・試験区に灰色カビ病が発生し、歩留まりが良くなかった。

(6)保温効果について

問題なし。

(7)雑草・病害虫の発生について

問題なし。

モニター感想

ク린テートSKは、防霧性が無いためハウス内に霧がかかるため灰色カビ病が発生した。防霧性能は必要。

夏場でも朝に霧が発生していたため、夏場のみの使用も難しいと思う。

ハウス内の暑さは、慣行区よりも抑えられたと感じた。(温度計を見ると1℃の差だった。)

JA担当者の感想(中富良野支所 生産資材課 野呂係長)

夏場の高温対策は、年々深刻さを増してきており、その対策が急務となっている。今回の試験では、ハウスフィルムによる遮熱・遮光により、ハウス内温度を抑制し、作業性の向上や作物の生育状況を確認することであったが、試験区において灰色カビ病が発生したため、今後の普及は難しい。一方、慣行区については生育に問題はなく、作業性の向上も確認できた。高温対策について、低コストかつ効果的な資材を模索していると思う。

今後の使用について

改良して欲しい。